

中編 P199~207,216~219
後編 P100~125,177~192,
224~232
烈風編 P118~120

⑦ 国造神社

『北阿蘇の外輪山のおもと、一の宮町手野にある国造神社。そこは健甞龍命の子で初代国造・速瓶玉命を主にまつた由緒ある式内社である。ここには天然記念物の有名な『手野の大杉』があるが、大杉は数年前の台風被害でかつての雄大な姿はなく、いまは幹だけが樹皮もそぎ落された状態で保存されている。』
『闇のとぼりが降りた国造神社の境内の奥には、仰木高耶の姿があった。(中略)高耶は雪の残る境内をゆっくりと歩いてきて、『手野の大杉』の前に立った。』



←古墳があるだろう山。
内部には石室もあります。



反織田同盟の本拠地のひとつ。途中からは、反上杉同盟でも。原作では台風被害にあったままの姿で描写されている手野の大杉は、数年前に無事だった幹と根元を切り離され、現在は防腐加工をほどこされた状態でまつてあります。以前の木の様子は、社務所で飾られた写真で知ることができます。

後編 P250~260
烈風編 P8~27

⑧ 大観峰

『ここはもともとは遠見が鼻と呼ばれていたが、阿蘇でも最も見事な眺望が得られるところから徳富蘇峰によって大観峰と名付けられた。北外輪山では最も高い場所で、阿蘇五岳とカルデラが一望のもとである。』



高耶さんと千秋、夜叉衆頂上対決の場。夜になると、こちらは真っ暗。バトルのあと、千秋はぼろぼろながらもレパードで市街地へ。高耶さんはここから虎の背に乗って江津湖まで……(とおい)